

次亜塩素酸水溶液普及促進会議アピール

次亜塩素酸水溶液普及促進会議は以下のアピールを行います。

- 一、次亜塩素酸水溶液は現在の新型コロナウイルスの流行とその後の新しい生活に対して感染予防策として役立つものである。
- 一、次亜塩素酸水溶液は正しい取り扱いを行うことで人体に影響なく安心して使える液体である。
- 一、その活用方法においては、空間に効果的に噴霧することによりエアロゾル感染を防ぎ、空気中及び床面・壁面など室内環境のウィルスを除菌することが可能である。
- 一、現在根拠なく「次亜塩素酸水溶液が新型コロナウイルスに効果がなくまた空間噴霧が健康に有害である」かのような報道がなされているがこれは明らかな誤報であり、本来感染防止に有効な手段を陥れる風評を作っている。結果、次亜塩素酸水の普及を妨げ新型コロナウイルスの感染を広げる結果となり重大な社会問題である。
- 一、根拠なく次亜塩素酸水溶液に対する誤った報道をしている報道機関は正しい事実に基づき取材し修正報道を行っていただきたい。
- 一、誤報の元となった中間報告を行った製品評価技術基盤機構及び経済産業省はより広く専門家の声を聞き誤解を受けないような最終報告を行っていただきたい。
今回、誤解と不安が広まった空間噴霧への説明についても追加試験で正しい事実を発表していただきたい。
- 一、厚生労働省は国民の命と健康を守る本来の使命から、新型コロナウイルス感染防止に有効な手段として次亜塩素酸水溶液の効能と使用方法を広く普及させるため専門家を集め業界団体の利害を超えた国民のための取り組みを行っていただきたい。
- 一、政府は国民の命と健康を守るため医療機関、高齢者施設、防災避難所を始めとする必要な箇所への次亜塩素酸水溶液の配布と備蓄を進めていただきたい。
- 一、新型コロナウイルスを始めとするウィルスと共生する新しい社会づくりのために次亜塩素酸水溶液の活用を広めていただきたい。

新型コロナウイルスを用いた代替消毒方法の有効性評価について (報告の概要①)

令和2年6月
新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会

新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会

背景

- 新型コロナウイルス対応で消毒用アルコール等の需給が逼迫
- 一般家庭等で入手可能なもののうち、アルコール消毒液の代替になり得る候補物資の選定と有効性評価が急務

政府が既に推奨している消毒方法

- ① 熱水
- ② アルコール消毒薬
- ③ 塩素系漂白剤

代替可能な「候補物資」を検討

界面活性剤

次亜塩素酸水

委員構成

委員長： 松本哲哉 国際医療福祉大学教授
(日本環境感染学会副理事長)

委員会の構成：
国立感染症研究所、国立医薬品食品衛生研究所
大阪大学、鳥取大学、関係団体他の委員
関係省庁等：厚生労働省他
事務局：製品評価技術基盤機構、経済産業省

検証協力機関

1. 国立感染症研究所
2. 北里大学
3. 帯広畜産大学
4. 鳥取大学
5. 日本繊維製品品質技術センター

候補物資の消毒対象

物品

※新型コロナウイルスへの消毒効果(有効性)の検証(安全性は含まない)

※手指や皮膚、空間噴霧は検証の対象外

新型コロナウイルスを用いた代替消毒方法の有効性評価について（報告の概要②）

界面活性剤

新型コロナウイルスを用いた検証で、一定濃度以上の9種の界面活性剤が消毒に有効と判明！

- ① 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム (0.1%以上)
- ② アルキルグリコシド (0.1%以上)
- ③ アルキルアミノキシド (0.05%以上)
- ④ 塩化ベンザルコニウム (0.05%以上)
- ⑤ 塩化ベンゼトニウム (0.05%以上)
- ⑥ 塩化ジアルキルジメチルアルアンモニウム (0.01%以上)
- ⑦ ポリオキシエチレンアルキルエーテル (0.2%以上)
- ⑧ 純石けん分 (脂肪酸カリウム (0.24%以上)
- ⑨ 純石けん分 (脂肪酸ナトリウム (0.22%以上)

「家庭用洗剤」で新型コロナウイルスを消毒！



家庭用洗剤のリストを公表しています。

NITE 洗剤リスト 検索

- 使用に当たっては、製造事業者等が提供する安全情報や使用上の注意等を十分に踏まえて、適切にご使用ください。

次亜塩素酸水

新型コロナウイルスを用いた検証で、一定濃度以上の次亜塩素酸水が消毒に有効と判明！

- ① 次亜塩素酸水（製造方法※によらず）：有効塩素濃度35ppm以上
- ② ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム：有効塩素濃度100ppm以上

※電気分解によるもの、異なる2つの液を混合することによるものなどがあります。



「次亜塩素酸水」で新型コロナウイルスを消毒！

- 物品の消毒を行う際には、物品の表面の汚れ（皮脂、動植物脂等）をよく落としてから、使用してください。
- 少量では十分に効果が発揮されないため、十分な量を使用してください。
- 使用に当たっては、製造事業者等が提供する安全情報や使用上の注意等を十分に踏まえて、適切にご使用ください。